



# 社会貢献大賞

## 青少年育成賞

### 『未来っ子カーニバル』

大阪府遊技業協同組合／大阪府遊技業組合連合会 青年部会

#### すべてが手弁当からのスタート 「子どもたちにクリスマスプレゼントを」

児童福祉施設の子どもたちに、楽しいクリスマスの思い出を作って欲しい——そんな気持ちからスタートした『未来っ子カーニバル』は平成18年(2006年)の12月で20回を迎える。スタッフの手弁当からスタートしたささやかな“カーニバル”は、大阪府の後援を得るまでになり、年末の一大イベントとして広く知られることとなった。

大阪府遊技業組合連合会青年部会が主催する『未来っ子カーニバル』がスタートしたのは昭和62年(1987年)。当時まだ青年部会はなく、組合所属の若手有志が集まって結成されたサークルのメンバー50人ほどが中心となり開催された。

当時の若手組合員には経営者の二代目、三代目が多く、親

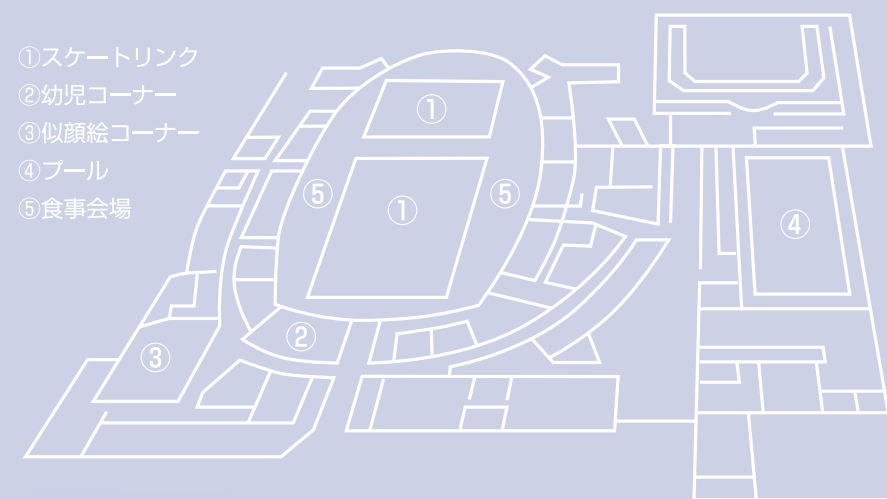
の仕事の特性もあって子どもの頃、休日や夏休みに遊びに連れて行ってもらう経験があまりない。だからだろう、「お父さん、お母さんのいない子どもたちに楽しんでもらいたい」「自分たちが少しでも夢を与えてあげられれば」との思いが結束し、やがて『未来っ子カーニバル』につながる。

開始当初はすべてが手弁当の運営だったが、現在は当日はアイススケートリンクや室内プール、体育館といった館内の施設を活用して、アトラクション、手品、トランポリン、屋台形式の食事コーナーなどを設置。また著名なアスリートやプロ野球選手などのゲストが参加するなど、毎年様々な趣向を凝らし、今やプロ顔負けの一大イベントに成長している。大規模スポーツ施設“なみはやドーム”(大阪府門真市)を会場にするほど規模は拡大し

「子どもたちが笑顔で帰って行く姿を見るたびに  
本当に今年もやってよかったなと思うんです」



- ①スケートリンク
- ②幼児コーナー
- ③似顔絵コーナー
- ④プール
- ⑤食事会場



た。しかし、「子どもたちにクリスマスプレゼントを」という気持ちに変わりはなく、今年は20回の節目を迎える。

大阪府下の全児童福祉施設に招待状を送り、第1回は1,000人程度だった参加児童数も、昨年12月23日の第19回には2,000人を超えるに至った。3年前からは大阪府の後援も得るなど、その活動は確実に着実に各方面への評価となって表れている。

『未来っ子カーニバル』は青年部会の社会貢献活動の中核となるイベントであるが、会長の南聖祐氏の言葉に代表されるように、「自分たちは恵まれた環境で育ってきた。誰かにその分幸せを少しでも与えられれば」という本当の想いが込められている。「笑顔に会いたくて」というテーマだったことを忘れてはならない。子どもたちの楽しそうな笑顔のために、『未来っ子カーニバル』は今年も開催される。







## 似顔絵コーナー



参加数が2,000人を超える大イベントに育った『未来っ子カーニバル』。運営・主催は青年部会だが、メンバー以外にも多くのボランティアスタッフの協力で成り立っている。

### 子どもの頃『未来っ子カーニバル』に参加した人が今度はボランティアスタッフとして関わる

現在『未来っ子カーニバル』は多くのボランティアの協力で成り立っている。遊技業関係者はもちろんだが、地域のボランティアセンターでスタッフに応募した人など、様々なボランティアが集まり、総勢は200人。

中には「子どもの頃『未来っ子カーニバル』に何回か行かせてもらった」という連合会傘下企業の社員が、ボランティアとして参加することもあったという。



大阪デザイナー専門学校  
学務部  
石川 武志さん

大阪デザイナー専門学校の学生たちも、3年前から、似顔絵を描く『似顔絵コーナー』でボランティアスタッフとして参加している。学務部の石川武志氏は「学生たちも楽しんで参加しています。みな終わったあとは充足感があるようで、できれば今後も参加させていただきたいですね」と話す。

多くの人たちの“子どもの笑顔が見たい”という気持ちで運営されているのが『未来っ子カーニバル』だ。



## ボランティアとして参加してくれた 大阪デザイナー専門学校の学生たち。



西口良さん

「似顔絵がこんなに人気があるのかあ～と思いました。来年もできれば参加したい」



福間博隆さん

「予想より多くの人と並んでくれて、予想よりとても喜んでくれて、疲れたけどいい気持ちで帰ることができました。絵が描けるということが嬉しく誇らしく思えたのは、本当に久しぶり」



清水友人さん

「子どもたちの純粋な笑顔を見られたことが一番思い出に残っている。本当に嬉しそうにしているんです。2年連続で参加していますが、同じ子が指名で来てくれたりすると、大感激。たった1日の関わり合いは寂しいので、これからもなんらかの形で関わっていけたらと考えています」



中川貴雄さん

「似顔絵を一番の楽しみに来てくれる子がいて、一番最初に描いた子が『似顔絵が一番面白いから最初に来た』と言ってくれたのが嬉しかったですね」



田邊和美さん

「ちょうど小学校、中学校の卒業式が間近だったので、『思い出と一緒に描いて』と言われて子どもと先生のツーショットの似顔絵を描きました。できあがった絵は、先生が子どもにプレゼント。喜んでもらえたみたいで、とても嬉しかった」



近藤香苗さん

「一度描いた兄弟が『2回目きた～!』と友達を連れてやってきて、『4人一緒に描いて～!』と私の前に並んでくれました。嬉しくて可愛くて。みんな、とても心が綺麗で素直な可愛い子どもたちです。もっと一緒に遊びたかった。来年もぜひ!」

鈴木麻友さん

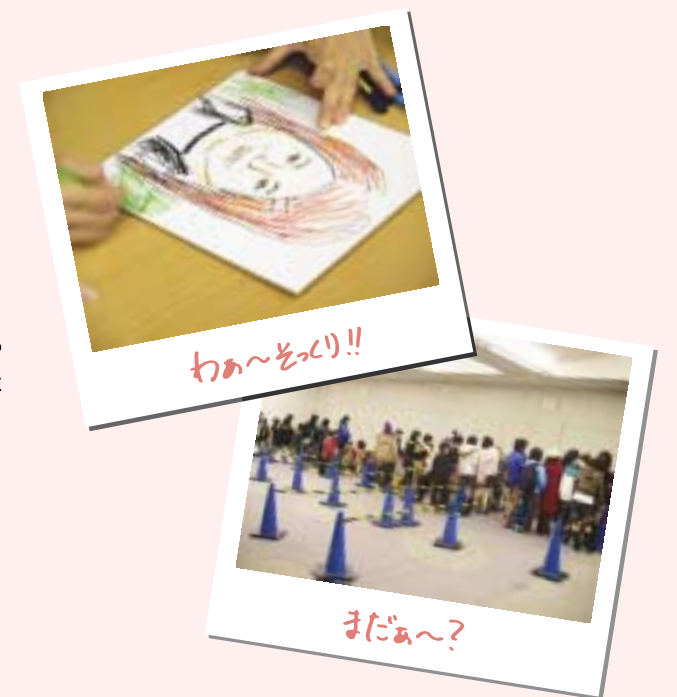
「頭の上にティンカーベルがいると信じている女の子に出会ったことがとても印象に残っています。子どもって素敵!」

池田奈津美さん

「描いた似顔絵を受け取ったときに、照れながらも嬉しそうだった子どもの表情を見て、こちらも嬉しかった。機会があればまた参加したい」

籠本美樹さん

「楽しく描くことができました。用意したメモに名前を書いてもらったんですが、絵が好きな子が多くて、名前を書くと同時に絵を描き出す子が続出! その絵がすごくキラキラしていて、素直に『ああ私も頑張らんと』と思ってしまいました。すごく良い経験でしたね」







この大規模なイベントを開催し続けて今年で20年。青年部会長の南聖祐氏、第8代青年部会長の服部嘉信氏、青年部会員の光本浩三氏に『未来っ子カーニバル』に対する想いや裏話をうかがった。

『未来っ子カーニバル』は  
青年部の社会貢献活動の一つ

——毎年、著名な方を迎えたり、子どもたちが喜び  
そうなアイデアが盛りだくさんとお聞きました。

●南聖祐さん(以下南) 毎年、今年はどんな企画をしようか、ということから話し始めるんです。去年は、『東京フレンドパーク』というテレビ番組のような体感ゲームを多くして、子どもたちに体を動かして汗をかいてもらおうというテーマでやりました。



●服部嘉信さん(以下服部) 開催当初はスタッフの友人や知人の芸能人に来ていただいたんです。当時はすべて手弁当だったので、来ていただいた方も、ほとんどボランティア。謝礼も微々たるものだったということです。



(上)平成16年(2004年)のゲストはアテネ五輪体操団体総合金メダルの塚原直也・水鳥寿思・米田功選手。会場は大興奮。



(中)ボクシングの徳山昌守選手は即席スパーリングを披露した。

(下)平成17年(2005年)は阪神の中西清起コーチが「ストラックアウト」コーナー参加。的を次々に射抜いて大歓声が。

●南 さすがに、知り合いといってもそう多くいるわけではない(笑)のですから、最近はテーマに合った方に青年部会から正式にお願いしています。

●光本浩三さん(以下光本) 一昨年の第18回はオリンピック開催の年だったので、シンクロの立花選手、武田選手、体操の塚原選手など、錚々たる選手の方々に来ていただきました。感謝しています。

——運営費も大変でしょうね。

●南 大阪府遊技業組合連合会の社会貢献イベントになりますので、基本的にはそちらから拠出していただいています。昨年は約2,000万円でした。

●服部 地元企業も主旨に賛同して、多く協賛していただき、飲み物などを提供してもらっています。

●南 青年部会活動のメインは社会貢献なので、この『未来っ子カーニバル』以外にも、シルバーパチンコ大会や大阪市の市民フェスタへの参加なども行っています。



カーニバルを終えないと  
年を越す気がしませんね

●南 今年はもう第1回目のミーティングを5月末にしたんです。

●光本 だいたい半年前から準備は始めますよね。

●南 毎回、実行委員長を青年部会の中から1人決め、その人の「自分はこういうことがしたい」というアイデアをベースに、いろいろと形作っていくんです。



——カーニバルに携わる青年部会についてご紹介ください。

●服部 メンバーは60人ちょっと。開催のための話し合いは10人程度からスタートし、最終的には全員参加です。



●南 毎年参加しているスタッフが多く、それぞれがプロフェッショナルになっていますよ。自分でマニュアルを作って、当日に一般ボランティアの方に配ったりしているメンバーもいるほどです。

——やっていて良かったなという瞬間は?

●南 それはもう、子どもたちが帰るときに「ありがとう」「また来年来ます」と言ってくれた時。『笑顔に会いたくて』というテーマでやっていますが、本当に笑顔で帰っていく姿を見ると、やってよかったなあ。

●服部 運営は正直大変だけど、子どもたちの笑顔で苦労はすべて忘れてしまうんです。そしていい年が迎えられる。

●光本 これがないと年を越せないといった感じなんですよ。

●南 青年部会の中で『未来っ子カーニバル』は、年末の風物詩みたいな存在です。



①第8代青年部会長 服部さん  
②青年部会長 南さん  
③青年部 光本さん



(上)半年以上の準備が報われて、充実の表情。  
(中)着ぐるみを脱いで記念撮影。お疲れさまでした。

(下)未来っ子カーニバルの記者会見。開催翌日には毎年地元マスコミで大きく報道されている。







## ありがとうございました!

～園児を代表して藤本さんからのメッセージ～

『未来っ子カーニバル』は主人公はもちろん子どもたち。大阪府すべての児童福祉施設に招待状を送り、年齢に関係なくすべての子どもたちに楽しんでもらうためのイベントだ。大阪市にある社会福祉法人「海の子学園」の入船寮も毎年参加している施設のひとつ。藤本 雅美先生に話を伺った。

### 会場に到着したときのスタッフの方々の出迎えがなにより嬉しい

「子どもたちは毎年楽しみにしています。入船寮のクリスマス会と日程が重ならない限り参加させていただいているんですが、時期が近づいてくると、子どもから『今年は何行けるの?』と聞かれる。楽しみにしているだけあって、みんなすごく詳しいんです。何ができるとか、お昼はこういうものがあったとか。

去年は20人近くが参加したんですが、施設までバスが送迎してくれますから引率が2人で十分なのもありがたい。会場でもたくさんのお店、食べ物、救急とスタッフの方々が気を配ってくれますから、私も子どもと一緒に遊んでいます」



着ぐるみ隊の見送り  
で子どもたちは最後まで大満足。

着ぐるみが勢ぞろい  
でお出迎え。抱き着く子ども多数。



子どもたちの笑顔につられて、スタッフの顔もほころぶ。



「来年も来るよっ!」と約束のハイタッチ。



何度も着ぐるみ役を務めているプロフェッショナルも。



お話を伺った  
保育士 藤本 雅美さん

すべての施設と会場間の貸し切りバス送迎は、引率の先生には好評だ。また子どもたちからは、「こんなにたくさんの方が助けてくれるのはすごいなあ」という驚き声が聞かれるという。

「なによりも会場に到着したときの、スタッフの方々の出迎えが嬉しいんです。会場でも大勢のスタッフの方々が、子どもたちを大満足させ親切で温かく、本当にありがたいこと。今後もぜひ行かせていただきたいと思います」

『未来っ子カーニバル』の意義は、子どもたちの笑顔で帰って行くという事実こそ集約されている。

## 社会貢献大賞 (青少年育成賞)

— 選考理由 —



社会貢献活動審査委員会 委員長 遠山 敦子氏

今年の社会貢献大賞と「青少年育成賞」のダブル受賞に輝いた「未来っ子カーニバル」は、「両親とともにクリスマスを過ごせない施設の子どもたちに楽しい一日を提供する」という心温まる活動です。これは、昭和62年(1987年)から大阪府遊技業協同組合の青年部が継続して実施しているもので、地域に根つき、関係機関・団体からも高い評価を得ています。

昨年末には、大阪府内の児童施設と交通災害遺児たち約2,000人が招待され、アイススケートなど子どもたち自身が体験して楽しめるよう工夫した催しでした。子どもたちのはじけるような笑顔が思い浮かびます。しかも高校生や施設卒業生がボランティアとして参加するという広がりも見られたと聞きました。

これからも、地域社会の未来に希望を与えられるような、様々な積極的な諸活動が全国各地でくりひろげられることを期待してやみません。